

## 平成23年度 筑波大学 2次試験前期日程(数学問題)120分

- 社会学類 [1], [4] 必答(数II・B), 及び他教科との選択.
- 国際総合学類 数II・B選択の場合は [1], [4] 必答.  
数III・C選択の場合は [2], [3] から1題選択, [5], [6] から1題選択.
- 教育・障害学類 数II・B選択の場合は [1], [4] 必答.  
数III選択の場合は [2], [3] 必答. 数C選択の場合は [5], [6] 必答.
- 心理学類 [1], [4] 必答, [2], [3], [5], [6] から2題選択.
- 生物学類・生物資源学類・医学・医療学類  
[1] ~ [3] 必答, [4] ~ [6] から2題選択.
- 地球・数学・物理・化学・応用理工・工学システム・情報科学・情報メディア  
創生学類 [2], [3], [5], [6] 必答, [1], [4] から1題選択.
- 社会工学類 [2], [3] 必答, [1], [4] から1題選択, [5], [6] から1題選択.
- 知識情報・図書館学類 [1] ~ [3] から1題選択, [4] ~ [6] から1題選択.

**1** Oを原点とする  $xy$  平面において, 直線  $y = 1$  の  $|x| \geq 1$  を満たす部分を  $C$  とする.

- (1)  $C$  上に点  $A(t, 1)$  をとるとき, 線分  $OA$  の垂直二等分線の方程式を求めよ.
- (2) 点  $A$  が  $C$  全体を動くとき, 線分  $OA$  の垂直二等分線が通過する範囲を求め, それを図示せよ.

**2** 自然数  $n$  に対し, 関数

$$F_n(x) = \int_x^{2x} e^{-tn} dt \quad (x \geq 0)$$

を考える.

- (1) 関数  $F_n(x)$  ( $x \geq 0$ ) はただ一つの点で最大値をとることを示し,  $F_n(x)$  が最大となるような  $x$  の値  $a_n$  を求めよ.
- (2) (1) で求めた  $a_n$  に対し, 極限值  $\lim_{n \rightarrow \infty} \log a_n$  を求めよ.

- 3**  $\alpha$  を  $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$  を満たす定数とする. 円  $C : x^2 + (y + \sin \alpha)^2 = 1$  および, その中心を通る直線  $l : y = (\tan \alpha)x - \sin \alpha$  を考える. このとき, 以下の問いに答えよ.

(1) 直線  $l$  と円  $C$  の 2 つの交点の座標を  $\alpha$  を用いて表せ.

(2) 等式

$$2 \int_{\cos \alpha}^1 \sqrt{1-x^2} dx + \int_{-\cos \alpha}^{\cos \alpha} \sqrt{1-x^2} dx = \frac{\pi}{2}$$

が成り立つことを示せ.

(3) 連立不等式

$$\begin{cases} y \leq (\tan \alpha)x - \sin \alpha \\ x^2 + (y + \sin \alpha)^2 \leq 1 \end{cases}$$

の表す  $xy$  平面上の図形を  $D$  とする. 図形  $D$  を  $x$  軸のまわりに 1 回転させてできる立体の体積を求めよ.

- 4** 数列  $\{a_n\}$  を,

$$a_1 = 1,$$

$$(n+3)a_{n+1} - na_n = \frac{1}{n+1} - \frac{1}{n+2} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

によって定める.

(1)  $b_n = n(n+1)(n+2)a_n$  ( $n = 1, 2, 3, \dots$ ) によって定まる数列  $\{b_n\}$  の一般項を求めよ.

(2) 等式

$$p(n+1)(n+2) + qn(n+2) + rn(n+1) = b_n$$

が成り立つように, 定数  $p, q, r$  の値を求めよ.

(3)  $\sum_{k=1}^n a_k$  を  $n$  の式で表せ.

- 5 実数を成分とする行列  $A = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix}$  を考える. 座標平面上の 2 点  $P(x, y)$ ,  $Q(u, v)$  について等式

$$\begin{pmatrix} u \\ v \end{pmatrix} = A \begin{pmatrix} x \\ y \end{pmatrix}$$

が成り立つとき, 行列  $A$  により点  $P$  は点  $Q$  に移るという.

点  $(1, 3)$  は行列  $A$  により点  $(10, 10)$  に移り, さらに等式

$$A^2 - 7A + 10E = O$$

が成り立つものとする. ただし,  $E = \begin{pmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$ ,  $O = \begin{pmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$  である. このとき, 以下の問いに答えよ.

- (1) 行列  $A$  により点  $(10, 10)$  が移る点の座標を求めよ.
- (2) 実数  $a, b, c, d$  の値を求めよ.
- (3) 次の条件 (\*) を満たす直線  $l$  の方程式を求めよ.

(\*) 直線  $l$  上のすべての点が行列  $A$  により  $l$  上の点に移る.

- 6  $d$  を正の定数とする. 2 点  $A(-d, 0)$ ,  $B(d, 0)$  からの距離の和が  $4d$  である点  $P$  の軌跡として定まる楕円  $E$  を考える. 点  $A$ , 点  $B$ , 原点  $O$  から楕円  $E$  上の点  $P$  までの距離をそれぞれ  $AP$ ,  $BP$ ,  $OP$  と書く. このとき, 以下の問いに答えよ.

- (1) 楕円  $E$  の長軸と短軸の長さを求めよ.
- (2)  $AP^2 + BP^2$  および  $AP \cdot BP$  を,  $OP$  と  $d$  を用いて表せ.
- (3) 点  $P$  が楕円  $E$  全体を動くとき,  $AP^3 + BP^3$  の最大値と最小値を  $d$  を用いて表せ.

## 解答例

1 (1)  $A(t, 1)$ . 線分  $OA$  の垂直二等分線上に点  $P(x, y)$  をとると,

$$OP^2 = AP^2 \text{ より } x^2 + y^2 = (x - t)^2 + (y - 1)^2$$

$$\text{整理すると } 2tx + 2y - t^2 - 1 = 0$$

(2) (1) の結果から,  $t$  に関する 2 次方程式

$$t^2 - 2xt - 2y + 1 = 0$$

が  $|t| \geq 1$  に (少なくとも 1 つ) 解をもつ領域  $(x, y)$  を求めればよい.

$f(t) = t^2 - 2xt - 2y + 1$  とおくと

$$f(t) = (t - x)^2 - x^2 - 2y + 1$$

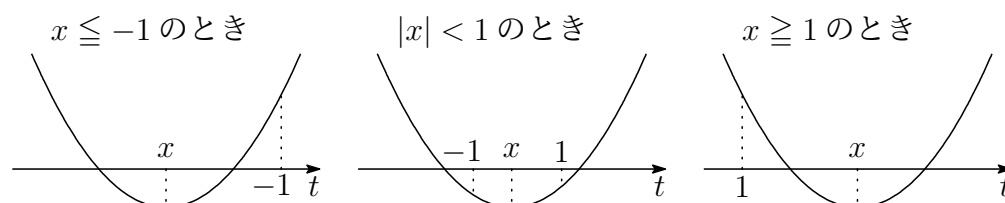
(i)  $|x| \geq 1$  のとき,  $-x^2 - 2y + 1 \leq 0$  より

$$y \geq -\frac{1}{2}x^2 + \frac{1}{2}$$

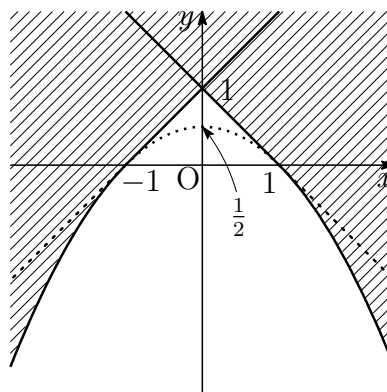
(ii)  $|x| < 1$  のとき,  $f(-1) \leq 0$  または  $f(1) \leq 0$  より

$$2x - 2y + 2 \leq 0 \text{ または } -2x - 2y + 2 \leq 0$$

$$\text{ゆえに } y \geq x + 1 \text{ または } y \geq -x + 1$$



(i), (ii) より, 求める領域は, 下の図の斜線部分で境界線を含む.



**2** (1)  $F_n(x) = \int_x^{2x} e^{-t^n} dt \quad (x \geq 0)$  より

$$\begin{aligned} F'_n(x) &= e^{-(2x)^n} (2x)' - e^{-x^n} = \frac{2}{e^{(2x)^n}} - \frac{1}{e^{x^n}} \\ &= \frac{2 - e^{(2^n-1)x^n}}{e^{(2x)^n}} \end{aligned}$$

$F'_n(x) = 0$  とすると  $2 - e^{(2^n-1)x^n} = 0$  ゆえに  $e^{(2^n-1)x^n} = 2$   
上の第2式の両辺の自然対数をとると

$$(2^n - 1)x^n = \log 2 \quad (*)$$

(\*) を満たす  $x$  はただ一つ存在し、これを  $c$  とおくと

$$c = \sqrt[n]{\frac{\log 2}{2^n - 1}}$$

このとき、 $F_n(x)$  の増減表は

$x$	0	...	$c$	...
$F'_n(x)$		+	0	-
$F_n(x)$		↗	極大	↘

$F(x)$  は  $x = c$  で最大となるから、 $a_n = c$  より  $a_n = \sqrt[n]{\frac{\log 2}{2^n - 1}}$

(2) (1) の結果から  $a_n = \frac{1}{2} \sqrt[n]{\frac{\log 2}{1 - 2^{-n}}}$

したがって  $\log a_n = -\log 2 + \frac{1}{n} \log \left( \frac{\log 2}{1 - 2^{-n}} \right)$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \log \left( \frac{\log 2}{1 - 2^{-n}} \right) = 0$  であるから  $\lim_{n \rightarrow \infty} a_n = -\log 2$  ■

**3** (1) 直線  $l: y = (\tan \alpha)x - \sin \alpha$  と  $C: x^2 + (y + \sin \alpha)^2 = 1$  の方程式から  $y$  を消去すると

$$x^2 + \{(\tan \alpha)x\}^2 = 1 \quad \text{ゆえに} \quad x^2 = \frac{1}{1 + \tan^2 \alpha} = \cos^2 \alpha$$

求める交点の座標は、 $x = \cos \alpha, -\cos \alpha$  を直線  $l$  の方程式に代入して

$$(\cos \alpha, 0), (-\cos \alpha, -2 \sin \alpha)$$

(2)  $\sqrt{1-x^2}$  は偶関数であるから

$$\begin{aligned} & 2 \int_{\cos \alpha}^1 \sqrt{1-x^2} dx + \int_{-\cos \alpha}^{\cos \alpha} \sqrt{1-x^2} dx \\ &= 2 \int_{\cos \alpha}^1 \sqrt{1-x^2} dx + 2 \int_0^{\cos \alpha} \sqrt{1-x^2} dx = 2 \int_0^1 \sqrt{1-x^2} dx \end{aligned}$$

$\int_0^1 \sqrt{1-x^2} dx$  は、半径 1 の  $\frac{1}{4}$  円の面積に等しいから

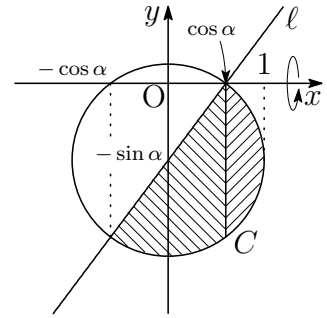
$$2 \int_{\cos \alpha}^1 \sqrt{1-x^2} dx + \int_{-\cos \alpha}^{\cos \alpha} \sqrt{1-x^2} dx = 2 \cdot \frac{\pi \cdot 1^2}{4} = \frac{\pi}{2}$$

$$(3) D: \begin{cases} y \leq (\tan \alpha)x - \sin \alpha \\ x^2 + (y + \sin \alpha)^2 \leq 1 \end{cases}$$

$D$  の表す部分は、右の図の斜線部分である。  
 $C$  の方程式から

$$y = -\sin \alpha \pm \sqrt{1-x^2}$$

$D$  を  $x$  軸のまわりに 1 回転させた立体の体積  
を  $V$  とすると



$$\begin{aligned} \frac{V}{\pi} &= \int_{-\cos \alpha}^{\cos \alpha} (-\sin \alpha - \sqrt{1-x^2})^2 dx - \int_{-\cos \alpha}^{\cos \alpha} \{(\tan \alpha)x - \sin \alpha\}^2 dx \\ &\quad + \int_{\cos \alpha}^1 \{(-\sin \alpha - \sqrt{1-x^2})^2 - (-\sin \alpha + \sqrt{1-x^2})^2\} dx \\ &= 2 \int_0^{\cos \alpha} (1 + \sin^2 \alpha - x^2) dx + 4(\sin \alpha) \int_0^{\cos \alpha} \sqrt{1-x^2} dx \\ &\quad - \frac{1}{3 \tan \alpha} \left[ \{(\tan \alpha)x - \sin \alpha\}^3 \right]_{-\cos \alpha}^{\cos \alpha} + 4(\sin \alpha) \int_{\cos \alpha}^1 \sqrt{1-x^2} dx \\ &= 2 \left[ (1 + \sin^2 \alpha)x - \frac{1}{3}x^3 \right]_0^{\cos \alpha} - \frac{8 \sin^3 \alpha}{3 \tan \alpha} + (4 \sin \alpha) \int_0^1 \sqrt{1-x^2} dx \\ &= 2(1 + \sin^2 \alpha) \cos \alpha - \frac{2}{3} \cos^3 \alpha - \frac{8}{3} \sin^2 \alpha \cos \alpha + 4(\sin \alpha) \cdot \frac{\pi}{4} \\ &= \left\{ 2(1 + \sin^2 \alpha) - \frac{2}{3} \cos^2 \alpha - \frac{8}{3} \sin^2 \alpha \right\} \cos \alpha + \pi \sin \alpha \\ &= \frac{4}{3} \cos \alpha + \pi \sin \alpha \end{aligned}$$

よって  $V = \left( \frac{4}{3} \cos \alpha + \pi \sin \alpha \right) \pi$

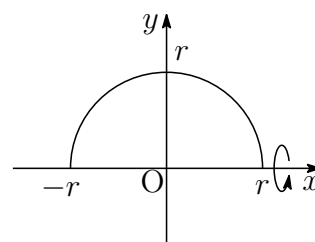
パップス・ギュルダンの定理 (Pappus-Guldinus theorem)

平面上にある図形  $D$  の面積を  $S$  とし,  $D$  と同じ平面上にあり  $D$  を通らない軸の周りで  $D$  を一回転させた回転体の体積を  $V$  とする. 回転させる図形  $D$  の重心  $G$  から回転軸までの距離を  $h$  とすると

$$V = 2\pi hS$$

が成立する.

右の半円は,  $y$  軸に関して対称であるから, 重心の  $x$  座標は  $0$  である. また重心の  $y$  座標  $h$  は,  $x$  軸のまわりに  $1$  回転すると, その立体 (球) の体積  $V = \frac{4}{3}\pi r^3$  と半円の面積  $S = \frac{1}{2}\pi r^2$  により



$$\frac{4}{3}\pi r^3 = 2\pi h \cdot \frac{1}{2}\pi r^2 \quad \text{ゆえに} \quad h = \frac{4r}{3\pi}$$

発展 半径  $1$  の半円  $C$  の中心  $P$  から重心  $G$  までの距離は

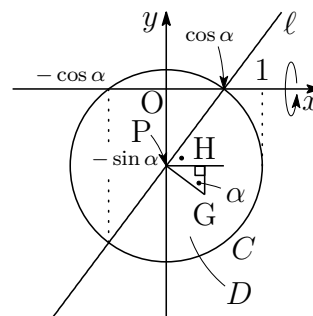
$$GP = \frac{4}{3\pi}$$

$G$  から直線  $y = -\sin \alpha$  に垂線  $GH$  を引くと

$$GH = GP \cos \alpha = \frac{4 \cos \alpha}{3\pi}$$

$G$  から  $x$  軸までの距離を  $h$  とすると

$$h = OP + GH = \sin \alpha + \frac{4 \cos \alpha}{3\pi}$$



領域  $D$  の面積  $S$  は  $\frac{\pi}{2}$  であるから, パップス=ギュルダンの定理により, 求める回転体の体積  $V$  は

$$\begin{aligned} V &= 2\pi hS = 2\pi \left( \sin \alpha + \frac{4 \cos \alpha}{3\pi} \right) \frac{\pi}{2} \\ &= \left( \pi \sin \alpha + \frac{4}{3} \cos \alpha \right) \pi \end{aligned}$$

注意 パップス・ギュルダンの定理は, 高校数学の範囲外である. 入試では使用できないが, 便利な検算法である<sup>1</sup>. ■

<sup>1</sup>[http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai\\_ri\\_2012.pdf](http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_ri_2012.pdf) (p.6)

- 4 (1)  $(n+3)a_{n+1} - na_n = \frac{1}{n+1} - \frac{1}{n+2}$  の両辺に  $(n+2)(n+1)$  を掛けると

$$(n+3)(n+2)(n+1)a_{n+1} - (n+2)(n+1)na_n = 1$$

$$b_n = (n+2)(n+1)na_n \text{ より } b_{n+1} - b_n = 1$$

また,  $b_1 = 3 \cdot 2 \cdot 1 a_1 = 3 \cdot 2 \cdot 1 \cdot 1 = 6$  より,  $\{b_n\}$  は, 初項 6, 公差 1 の等差数列であるから

$$b_n = 6 + (n-1) \cdot 1 = n + 5$$

- (2)  $p(n+1)(n+2) + qn(n+2) + rn(n+1) = b_n$  に (1) の結果を代入して

$$p(n+1)(n+2) + qn(n+2) + rn(n+1) = n + 5$$

これに  $n = 0, -1, -2$  をそれぞれ代入すると

$$2p = 5, \quad -q = 4, \quad 2r = 3 \quad \text{よって} \quad p = \frac{5}{2}, \quad q = -4, \quad r = \frac{3}{2}$$

- (3)  $p(n+1)(n+2) + qn(n+2) + rn(n+1) = b_n$

上式の両辺を  $n(n+1)(n+2)$  で割ると

$$\frac{p}{n} + \frac{q}{n+1} + \frac{r}{n+2} = a_n$$

(2) の結果から,  $q = -p - r$  であるから

$$a_n = p \left( \frac{1}{n} - \frac{1}{n+1} \right) - r \left( \frac{1}{n+1} - \frac{1}{n+2} \right)$$

したがって,  $p = \frac{5}{2}$ ,  $q = \frac{3}{2}$  より

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n a_k &= \frac{5}{2} \sum_{k=1}^n \left( \frac{1}{k} - \frac{1}{k+1} \right) - \frac{3}{2} \sum_{k=1}^n \left( \frac{1}{k+1} - \frac{1}{k+2} \right) \\ &= \frac{5}{2} \left( 1 - \frac{1}{n+1} \right) - \frac{3}{2} \left( \frac{1}{2} - \frac{1}{n+2} \right) \\ &= \frac{5n}{2(n+1)} - \frac{3n}{4(n+2)} = \frac{n(7n+17)}{4(n+1)(n+2)} \end{aligned}$$

■



$$\boxed{5} \quad (1) \quad A \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 \\ 10 \end{pmatrix}, \quad A^2 - 7A + 10E = O \text{ より}$$

$$\begin{aligned} A \begin{pmatrix} 10 \\ 10 \end{pmatrix} &= A^2 \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix} = (7A - 10E) \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix} \\ &= 7A \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix} - 10E \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix} \\ &= 7 \begin{pmatrix} 10 \\ 10 \end{pmatrix} - 10 \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 60 \\ 40 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

$$(2) \quad A \begin{pmatrix} 1 \\ 3 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 \\ 10 \end{pmatrix}, \quad A \begin{pmatrix} 10 \\ 10 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 60 \\ 40 \end{pmatrix} \text{ より}$$

$$A \begin{pmatrix} 1 & 10 \\ 3 & 10 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 10 & 60 \\ 10 & 40 \end{pmatrix}$$

$$\begin{vmatrix} 1 & 10 \\ 3 & 10 \end{vmatrix} = 1 \cdot 10 - 10 \cdot 3 = -20 \neq 0 \text{ であるから}$$

$$\begin{aligned} A &= \begin{pmatrix} 10 & 60 \\ 10 & 40 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 10 \\ 3 & 10 \end{pmatrix}^{-1} \\ &= \frac{1}{-20} \begin{pmatrix} 10 & 60 \\ 10 & 40 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 10 & -10 \\ -3 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 4 & 2 \\ 1 & 3 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

よって  $\mathbf{a} = 4, \mathbf{b} = 2, \mathbf{c} = 1, \mathbf{d} = 3$

(3) 行列  $A$  の固有方程式は  $\lambda^2 - 7\lambda + 10 = 0$  これを解いて  $\lambda = 2, 5$

$$A - 2E = \begin{pmatrix} 2 & 2 \\ 1 & 1 \end{pmatrix}, \quad A - 5E = \begin{pmatrix} -1 & 2 \\ 1 & -2 \end{pmatrix}$$

$\lambda = 2, 5$  に対する固有ベクトルは、それぞれ  $\begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} 2 \\ 1 \end{pmatrix}$

よって、行列  $A$  による不動直線は  $\mathbf{y} = -\mathbf{x}, \mathbf{y} = \frac{1}{2}\mathbf{x}$  ■

- 6 (1) 楕円  $E$  の方程式を

$$\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$$

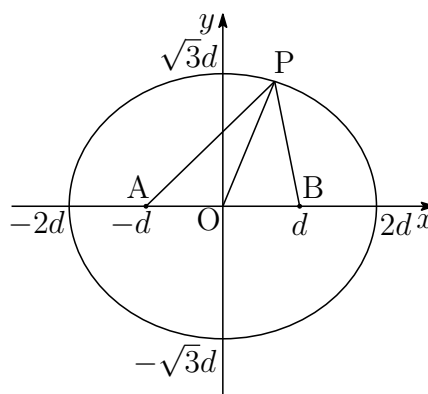
とおく. 2点  $A(-d, 0)$ ,  $B(d, 0)$  から楕円  $E$  上の点  $P$  までの距離の和が  $4d$  であるから

$$\text{長軸の長さ} \quad 2a = 4d$$

$$a = 2d, \quad d = \sqrt{a^2 - b^2} \text{ より}$$

$$d = \sqrt{(2d)^2 - b^2} \quad \text{ゆえに} \quad b = \sqrt{3}d$$

$$\text{短軸の長さ} \quad 2b = 2\sqrt{3}d$$



- (2) 中線定理により  $AP^2 + BP^2 = 2(OP^2 + d^2)$

$AP + BP = 4d$  であるから

$$\begin{aligned} AP \cdot BP &= \frac{1}{2} \{ (AP + BP)^2 - (AP^2 + BP^2) \} \\ &= \frac{1}{2} \{ (4d)^2 - 2(OP^2 + d^2) \} = 7d^2 - OP^2 \end{aligned}$$

- (3) (2) の結果から

$$\begin{aligned} AP^3 + BP^3 &= (AP + BP)^3 - 3AP \cdot BP (AP + BP) \\ &= (4d)^3 - 3(7d^2 - OP^2) \cdot 4d \\ &= 12d \cdot OP^2 - 20d^3 \end{aligned}$$

$$\sqrt{3}d \leq OP \leq 2d \text{ より} \quad 16d^3 \leq AP^3 + BP^3 \leq 28d^3$$

よって 最大値  $28d^3$ , 最小値  $16d^3$  ■